

2022年3月期第3四半期決算に関する電話一斉取材 主なQ & A

※ 当日の質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

[計画に対する進捗・足元の収入状況]

Q： 第3四半期における対計画での進捗状況は。また、足元の運輸収入の状況はどうか。

A： 対計画では、運輸事業では運輸収入が計画を約290億円上回ったほか、コストダウンも進んでいることから、計画よりも好調に推移している。不動産・ホテル事業も好調に推移している。一方で、流通・サービス事業、その他はやや計画を下回って推移した。  
足元では1月に入り、オミクロン株による影響が出てきている。中長距離収入については、2月の指定席予約状況が対前々年比で50%を下回っている状況である。近距離収入についても、中長距離収入ほどではないものの、影響が出てきている。

Q： 近距離収入について、月次では対前々年比で10月から12月にかけて80%程度で横ばいに推移しており、水準が変わっていないようだが、どのように評価しているか。また、オミクロン株による影響が出たのはいつ頃からか。

A： 当初の計画では、近距離収入は徐々に回復すると想定していたが、実際はかなり早く回復したと考えている。10月の段階でかなり回復が進み、同じ水準が11月、12月と続いたと認識している。オミクロン株の影響が出たのは年明けからである。

[不動産・ホテル事業の見通し]

Q： 不動産・ホテル事業の利益について、第4四半期の見通し（通期計画から第3四半期累計を差し引いた額）が第3四半期（会計期間）実績と比較して大きく減益になるが、計画通りに推移する見込みか。

A： 不動産事業における回転型ビジネスモデルによる売却で、第3四半期に収益で700億円弱、利益で約600億円を計上している。第4四半期は売却の計画がないことに加え、他の四半期と比較して費用が多く計上されることから、このような計画となっている。

以上